

《長崎新聞 平成26年8月25日朝刊より転載》

【質問】高血圧症の基準値が緩くなったと聞きました。それによると、私の数値は下回るため、今まで飲んでいた高血圧の薬は飲まなくてもよくなるのでしょうか。
(52歳、男性)

高血圧症の基準

意味異なる二つの値



「値の範囲」を導き出したのです。

世界保健機関 (WHO)

上で、治療の降圧目標値を患者の合併症の有無で分類。糖尿病や腎臓病などの合併症のない場合は、医療機関で測る「診察室血圧」で「上140未満、下90未満」、合併症のある場合は「診察室血圧」で「上130未満、下80未満」としていま

【回答】日本人間ドック学会ならびに健康保険組合連合会が4月に「高血圧の新たな健診結果の正常値を上(収縮期)147以下、下(拡張期)94以下とする」と発表したところ、一部で「これが今後の新しい高血圧症の基準となる」と紹介されてしまいました。

しかし、発表内容をよく読むと、「『健康な人』の95%が上147以下、下94以下の範囲に分布している」と

「健康な人の標準的な検査値」ということなのです。昨年1年間に人間ドックを受診した約150万人の中から、国際的に認知されている米国の基準に準じて「いわゆる健康人」約35万人を抽出。その中から無作為に選んだ約1万1千人の統計を取り、1万5千人の標準的な検査値

を含め世界的には、高血圧症の診断基準値は「上140以上、下90以上」と定めています。今年4月、日本高血圧学会が改定した「高血圧治療ガイドライン2014」でも「上140未満、下90未満」を正常域血圧としています。同ガイドラインではその

治療対象の緩和ではない

「そのまま放置すると、将来心臓病や脳血管障害などの死に至る重篤な病気を引き起こす可能性が高くなる値」として設定されています。人間ドック学会が提唱した健康人であるという健診結果の正常値「上147以下、下94以下」と、将来重篤な病気を併発する可能性の高い高血圧診断基準値「上140以上、下90以上」は言葉の持つ意味が違うのです。日本医師会と日本医学会は二つの基準値の意味を説明した上で、日常の診療では高血圧学会のガイドラインを用いることを推奨しています。

(県医師会)

質問をどうぞ

この欄では県医師会が医療制度全般の質問にお答えします。質問希望の方は知りたい内容を分かりやすくまとめ、〒852-8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「医療制度Q&A」係までお送りください。不明な点をお聞きする場合がありますので住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記してください。なお、直接本人への回答はいたしません。